

## 遺愛PTAクリスマス会

11月30日（水）13:00よりホワイトハウスで遺愛PTAクリスマス会が行われました。25名の中学・高校のPTAの方々がいらっしやり、和やかにクリスマスをお祝いしました。はじめに礼拝を守り、その後で祝会となりました。

今回の礼拝でのメッセージは、遺愛の歴史を知りたいという御要望にお応えして、142年の遺愛の歩みをコンパクトにまとめて、スライドをまじえながらお話しさせていただきました。

函館の地に、イエス・キリストの福音を宣教したいという熱い思いで1874年（明治7年）1月26日にアメリカからいらしたM・C・ハリスご夫妻は、すぐに日々学校を始めます。次第に、函館の女性の置かれている厳しく辛い状況を知り、改善するには女子のための寮付きの女学校を設立する必要性をハリス夫人は感じ、アメリカの教会に献金をお願いしました。それに応えてくれたのがライト夫人を始め、米国メソジスト教会の信者の方々でした。そのお金で1878年にプリースト宣教師の手で学校が建てられるのですが、大火で焼失してしまいます。改めて、1882年（明治15年）2月1日にウッドワース（初代校長）とハンプトン（2代目校長）により、キャロライン・ライト・メモリアルスクールという校名で開校されました。3年後に校名が遺愛女学校に変わります。はじめは弘前から来た6名の生徒で始まりますが、秋には15名に増えます。初めての卒業生は6年後で、珍田みわという方が1人卒業しました。やはり弘前出身でした。

遺愛の教育上の基礎は4代目校長であるデカルソンによって確立しました。デカルソン校長は『信仰・犠牲・奉仕』を遺愛の校訓として位置づけ、自ら積極的に奉仕の業を行った方でした。函館盲学校・聾学校の前身である函館訓盲院を精神的にも経済的にも支えたのはデカルソン校長でした。

函館大火に見舞われたり、太平洋戦争の時には、敵国であるアメリカが創設した学校と言うことで辛酸をなめたこともありました。

しかし神様に導かれて何とか乗り越えることができ、戦後を迎え、大きく発展しました。現在は、道南の構造的な人口減のなかで私立各校とも厳しい生徒減が続いており、遺愛も決して安心はできませんが、神様の導きを信じながら、様々な場所で「地の塩・世の光」として働く女性を育てたいと願い、教育をしていることを話させていただきました。当初30分の予定が、1時間になってしまい、司会進行の方にはご迷惑をかけましたが、保護者の方々には好評だったようでした。

礼拝後は、ビンゴをしたり、お菓子を食べながらおしゃべりをしたりして、楽しい一時を過ごしました。

2016年11月30日（水）

